

2025年3月期決算説明資料

～上場来最高業績の達成と、持続的成長への基盤構築～



2025年5月12日

株式会社坪田ラボ

東証グロース市場：4890

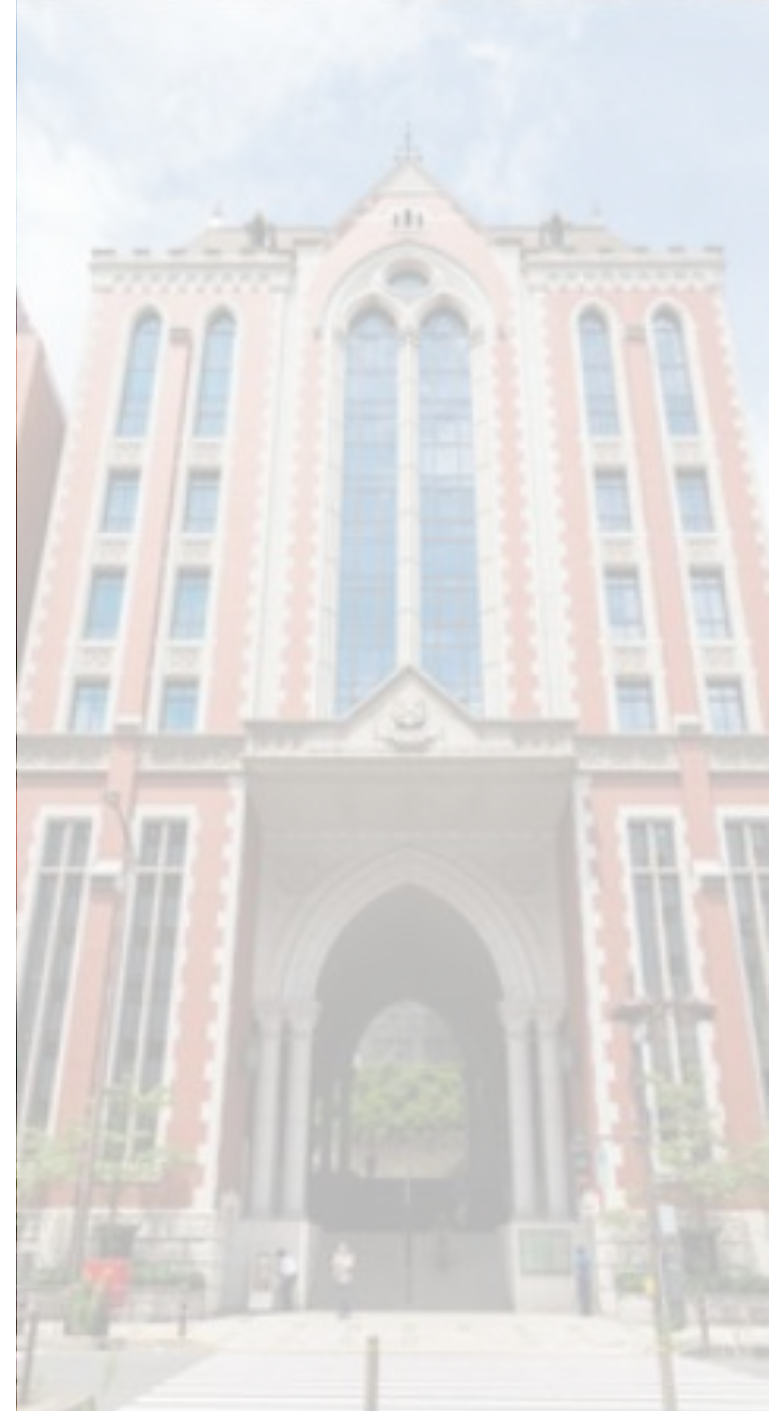
VISIONary INNOVATIONで 未来をごきげんにする

当社は、“VISIONary INNOVATIONで未来をごきげんにする”というミッションのもと、近視、ドライアイ、老眼、脳疾患などに対する革新的かつ科学的根拠に基づくソリューションの創出に取り組んでいます。慶應義塾大学医学部発の研究開発型ベンチャーとして、世界的に深刻化する近視人口の増加や、ドライアイによるQOL（生活の質）の低下、高齢社会における老視および脳疾患への予防・治療ニーズといった社会課題に真正面から取り組むことで、社会的意義と経済的価値を両立させ、企業価値の持続的な向上を目指しています。

「VISIONary INNOVATION」は、当社の中核的な価値観を体現する言葉です。“Vision”は眼疾患という医療領域を、“Visionary”は先見性と革新性を意味し、私たちはこの2つの意味を重ね合わせ、未来を見据えた医療・ヘルスケア製品の創出を目指しています。すなわち、「VISIONary INNOVATION」とは、視機能に関わる疾患への深い洞察と、次世代の健康価値を切り拓く革新的なアプローチを融合させた、坪田ラボ独自の開発哲学です。

目次

- ① 2025年3月期実績
- ② 2026年3月期業績予想
- ③ 成長戦略
- ④ Appendix



1

2025年3月期実績

2025年3月期の概要・トピックス

□ 売上、営業利益、経常利益、当期純利益が4年ぶりに過去最高を更新！

- 中国大手眼科用医薬品メーカー「Shenyang Xingqi Pharmaceutical Co., Ltd.」との独占的实施許諾契約締結
- 中国の大手眼科用医薬品メーカー「Sunflower社」の関連会社である「Beijing Yijie Pharmaceutical Technology Co., LTD.」との正式契約締結
- 「ロート製薬」との点眼薬に関する評価契約締結
- 海外製薬企業との非臨床データ等に関するライセンス契約締結

□ 研究開発も順調に推移

□ 中長期成長に向けた組織体制の強化

- 慶應義塾大学のインキュベーション拠点である「CRIK信濃町」へ本社を移転
- 中国浙江省温州「Eye Valley」に日本企業で初めてオフィスを開設
- 2024年3月末：7名 ⇒ 2025年3月末：17名 2.4倍
- 開発体制の強化・外部研究者との連携

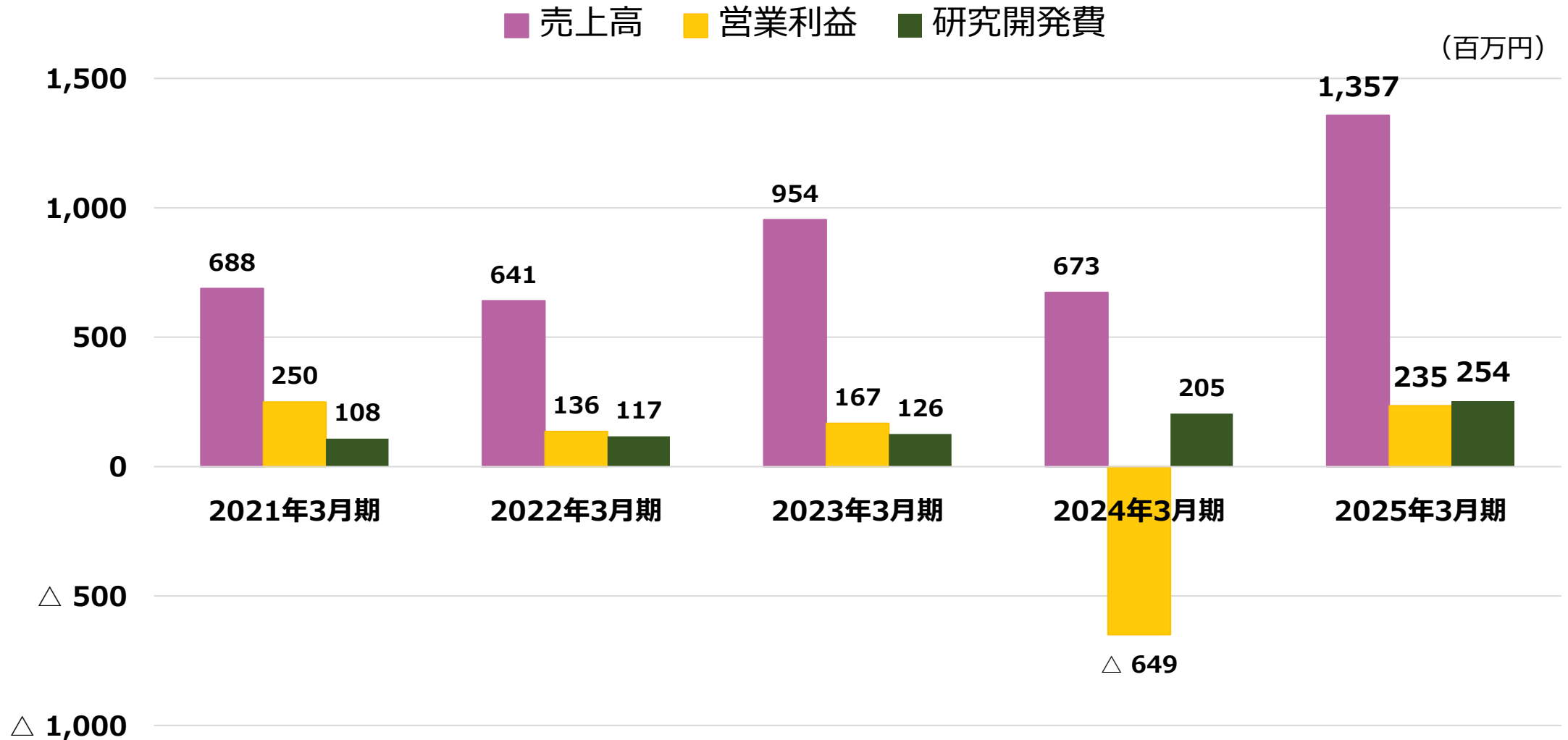
損益計算書（P/L）の概要

4年ぶりに売上高、経常利益、当期純利益が過去最高を更新

（単位：百万円未満切捨て）

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	前年比増減	増減率%
売上高	954	673	1,357	683	+101.5
営業利益	167	△649	235	885	黒転
経常利益	144	△636	281	917	黒転
当期純利益	90	△641	205	847	黒転
研究開発費	126	205	254	48	+23.8

損益計算書（P/L）の概要



中国市場への本格的参入

□ 中国大手眼科用医薬品メーカー「Xingqi社」との独占的実施許諾契約締結

□ 契約金総額：18百万USドル



【Xingqi社】

□ 中国の大手眼科用医薬品メーカー「Sunflower社」の関連会社である「Beijing Yijie Pharmaceutical Technology Co., LTD.」との正式契約締結

□ 契約金総額：10.3億円



【BYPT社との調印式】

日本・欧州での展開加速

□ 「ロート製薬」との点眼薬に関する評価契約締結

革新的な点眼薬に関する知的財産権の評価および製品化を視野に入れた実施許諾契約をロートが独占的に交渉できる権利を付与。

独占的評価権の対価として、契約金1億円を受領

□ 「海外製薬企業」との非臨床データ等に関するライセンス契約締結

当社と海外製薬企業との間で非臨床試験データおよび一部臨床試験結果に関するライセンス契約を締結。

2024年10月および2025年3月に売上計上

研究開発の順調な進捗

- **TLM-001** 臨床試験 Phase 1 終了
- **TLM-003** 臨床試験 Phase 1 終了
- **TLG-001** 検証的臨床試験で、治療期間が終了し観察期間に移行
- **TLG-005** パーキンソン病・うつ病・軽度認知症（MCI）特定臨床研究終了
機器の安全性が確認され、うつ病では有効性を示す結果
- **TLG-020** 特定臨床研究の準備中
- **TLG-021** 臨床研究を実施中
- 老齢犬の認知機能改善を目的とした研究を公的支援のもと実施中

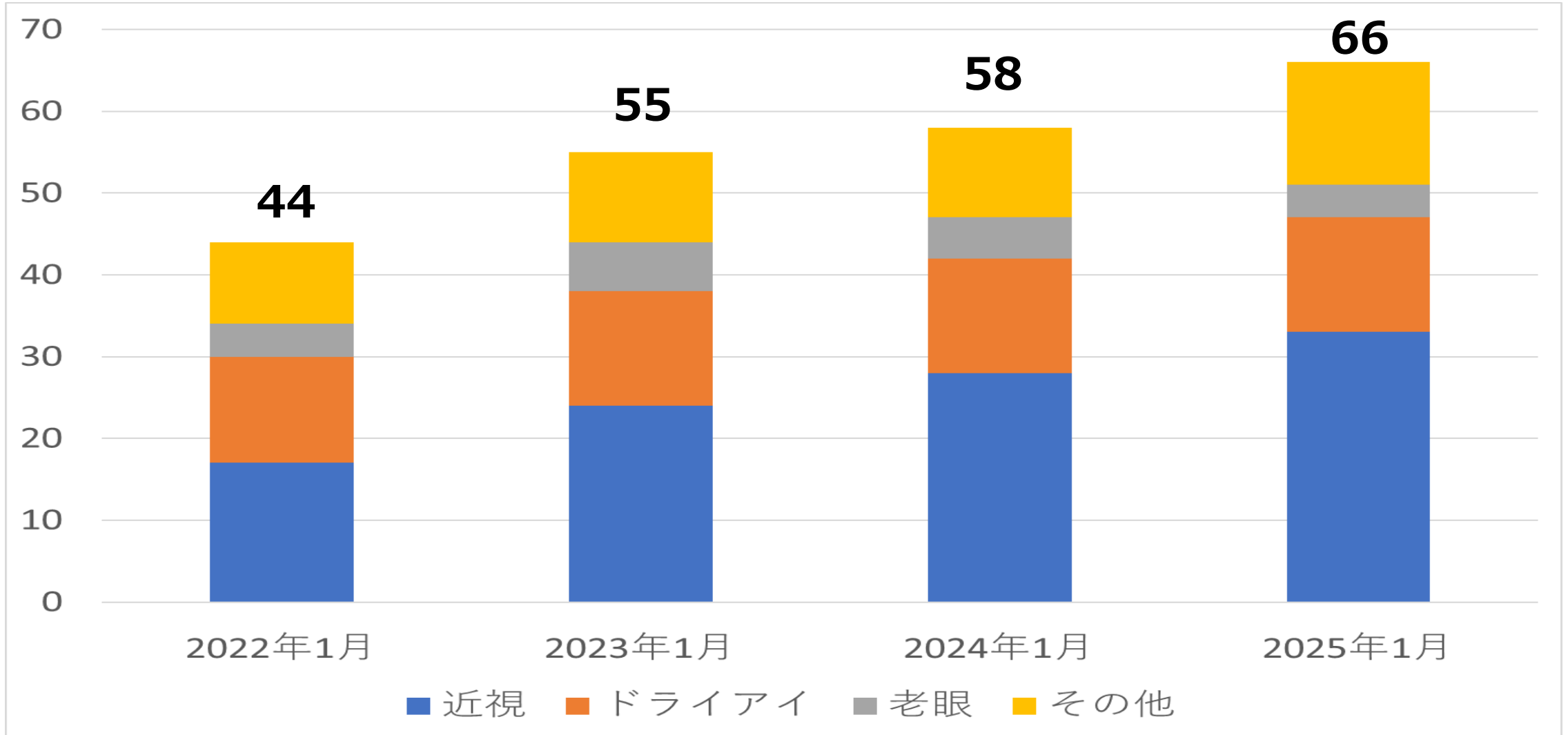
パイプライン概要

2025年3月末

コード	想定適応症	登録	関連特許	パートナー	基礎研究	非臨床試験	探索臨床研究	臨床試験	申請	上市	進捗・状況
TLM-001	マイボーム腺機能不全	登録	日米英独仏	マルホ（グローバル）							臨床試験 Phase 1終了
TLM-003	近視進行抑制	登録 出願	日韓欧 米中泰越	ロート製薬（国内・アジア3地域※2） Thea※3（米、欧）							臨床試験 Phase 1終了
TLM-017	角結膜障害 NEW	出願	日米欧中台韓越尼 未定								
TLM-018	未公開（点眼薬）	出願	国際（PCT） （日本を含む）	ロート製薬							申請
TLM-023	近視進行抑制 NEW	出願	日米欧中豪伯加尼 印韓墨馬星秦台越 未定								
TLG-001※6	近視進行抑制	登録 出願	日欧※1香星台韓 中	JINS（日本） BYPT※4（中国・アジア3地域※5）							全症例が観察期間へ
TLG-003※6	円錐角膜進行抑制	登録 出願	日印 米伯	未定							※1： 英仏独伊 ※2： 台湾、ベトナム、インドネシア ※3： Laboratoires Théa ※4： Beijing Yijie Pharmaceutical Technology ※5： 香港、マカオ、台湾 ※6： バイオレットライト関連製品（TLG-001, TLG-003）については、関連特許に加え、基本特許で保護。基本特許は日米中台韓で登録、欧韓星で出願中。
TLG-005M	軽度認知障害	登録 出願	日 米欧中以伯韓印	FrontAct							
TLG-005D	うつ病	登録 出願	日 米欧中以伯韓印	未定							
TLG-005P	パーキンソン病	登録 出願	日米欧中加韓墨 星泰越	未定							
TLG-020	網膜色素変性症 NEW	出願	国際（PCT） （日本を含む）	未定							
TLG-021	月経不順 NEW	出願	準備中	未定							特定臨床研究開始

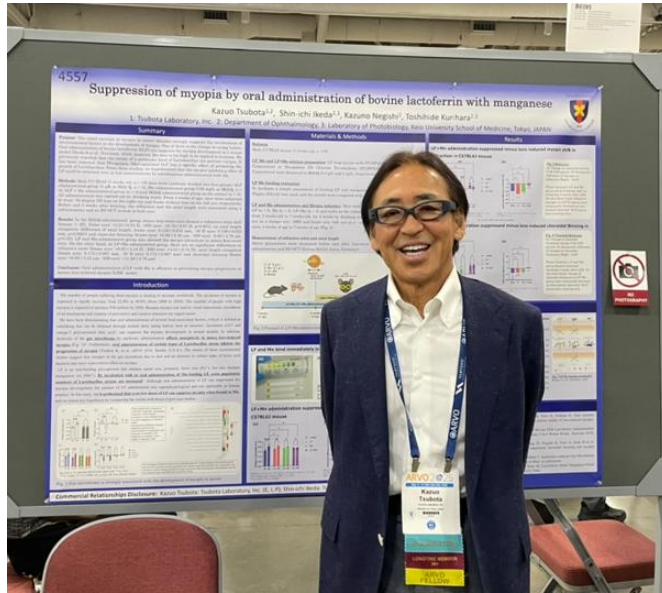
注記：日＝日本、米＝米国、欧＝欧州、中＝中国、台＝台湾、星＝シンガポール、香＝香港、韓＝韓国、尼＝インドネシア、比＝フィリピン、泰＝タイ、越＝ベトナム、印＝インド、豪＝オーストラリア、英＝英国、仏＝フランス、独＝ドイツ、伊＝イタリア、
澳＝オーストラリア、波＝ポーランド、土＝トルコ、以＝イスラエル、加＝カナダ、伯＝ブラジル、墨＝メキシコ、馬＝マレーシア、PCT＝特許協力条約に基づく国際出願）

特許出願の状況



基礎研究分野の充実

□ARVO2025において研究成果を発表



□共同研究先の拡大

- T-SBIR研究※は、1年で3件増加（慶應義塾大学以外の研究機関と実施）
- 多様な研究機関との新たな共同研究の開始に向け、探索活動中

※ T-SBIR : 坪田—Small Business Innovation Research

第2回つぼラボ学会開催

坪田ラボと共同研究者の方々がどのような研究を進めているのか、そうした研究がどのように開発につながっていくのかといったを、関係者が一堂に会して共有し、議論し合う場



「知財功労賞 特許庁長官表彰」など受賞

□ 「令和7年度 知財功労賞 特許庁長官表彰」を受賞



□ 「Well-being & Age-tech 2024 Award」にて優秀賞を受賞



中長期成長に向けた組織体制の強化

□ 慶應義塾大学のインキュベーション拠点
へ本社を移転



【CRIK信濃町】

□ 中国「Eye Valley」に日本企業で
初めてオフィスを開設



【Eye Valley 中国眼谷】

組織体制の大幅強化 成長のための布石

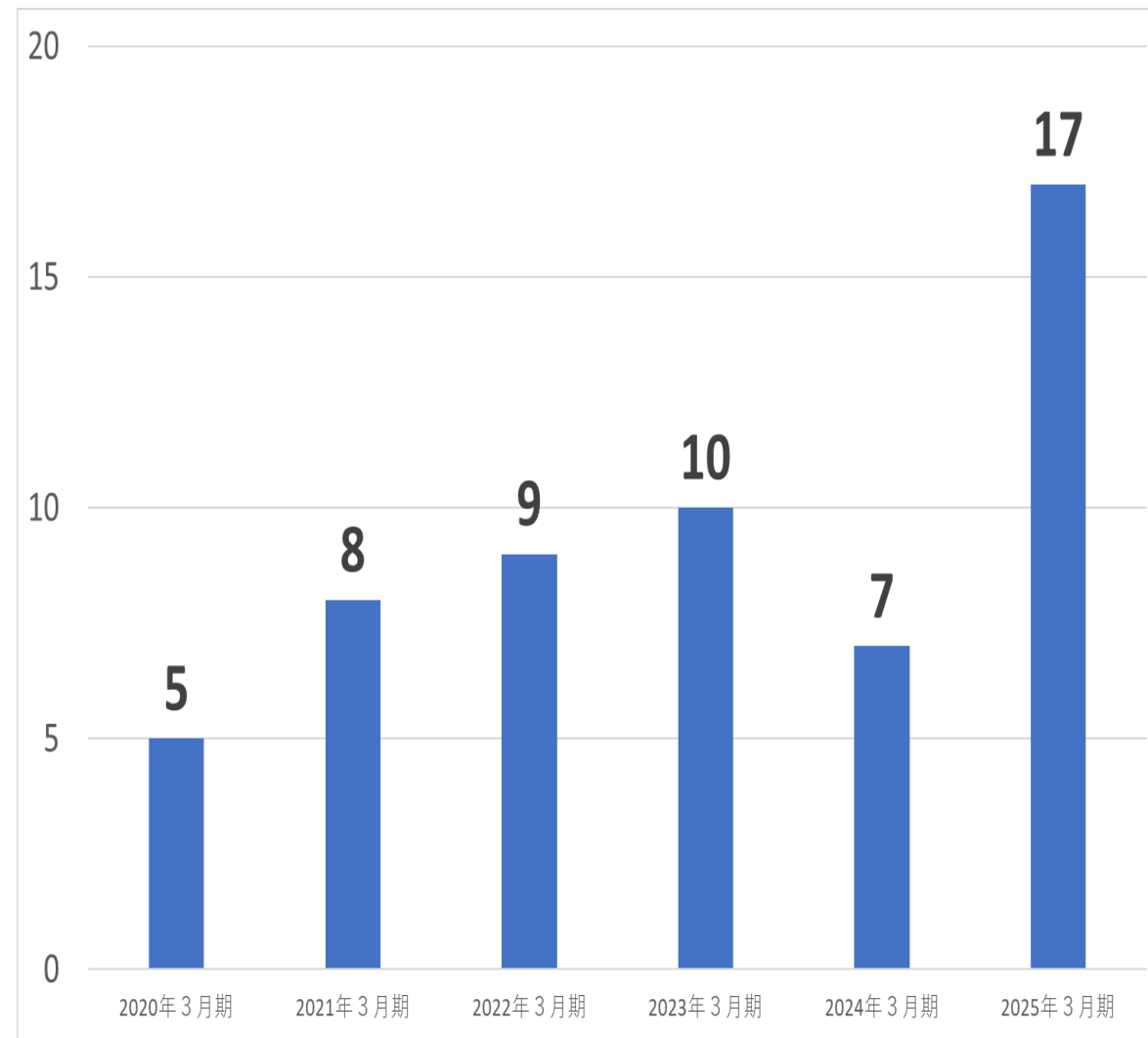


出典：SalesNow DB

「成長している企業」を従業員成長率という数値をもとに表彰している「SalesNow成長企業セレクション」で「10~99名」のカテゴリーで「上位5% TRIPLE」と表彰されました。

**持続可能な成長と社会的価値の創出を目指し
研究開発・事業開発の両面で組織体制の強化**

- 製薬企業、バイオベンチャーなど研究開発部門
- グローバルに活躍している事業開発部門
- バックオフィス部門



〈従業員数の推移〉

2

2026年3月期業績予想

時期業績通期見通しと持続的成長への取り組み

□ 医薬品を中心に、過去最高売上更新へ

□ アメリカへの進出！

米国西海岸に事務所を開設予定。当社のグローバル市場における事業展開を加速し、北米市場での研究開発活動および事業パートナーシップを強化

□ 研究開発も進展

研究開発費を大幅増：2.5億円 ⇒ 5.5億円 倍増

TLM-003（近視進行抑制 点眼薬）ロート製薬*が臨床試験 Phase 2 開始

TLG-001（近視進行抑制 バイオレットライト照射デバイス）：観察期間終了予定

□ 2025年は「近視」が社会的テーマに！

2026年3月期の通期業績予想の概要

R&D投資を拡大しながら、増収基調を維持して前期同水準の利益を確保へ

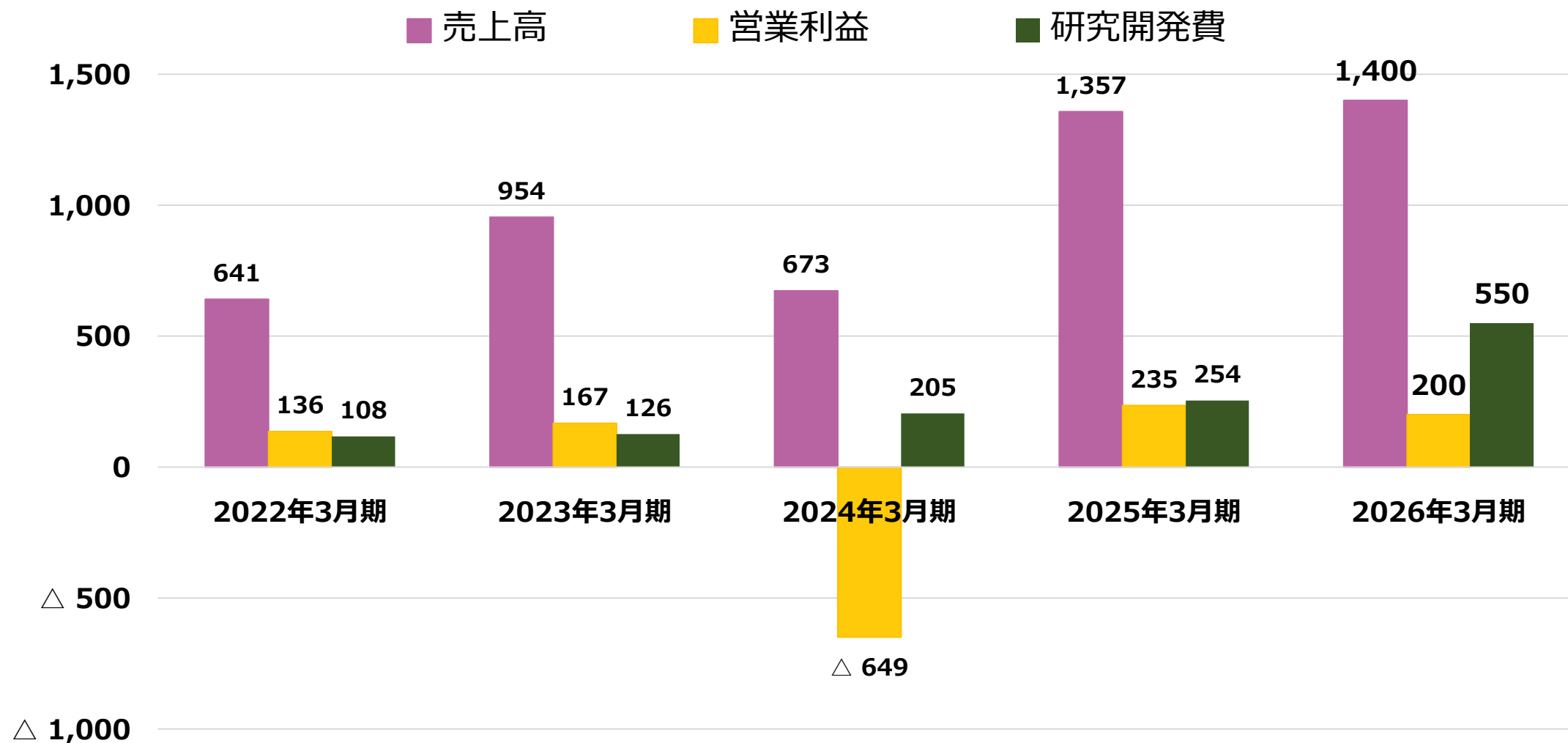
(単位：百万円未満切捨て)

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	前年比増減
売上高	954	673	1,357	1,400	+43
営業利益	167	△649	235	200	△35
経常利益	144	△636	281	220	△61
当期純利益	90	△641	205	150	△55
研究開発費	126	205	254	550	+296
研究員数 [#]	33	38	43	増員予定	

社外の業務委託研究員を含む。

必要なスキルを有した外部研究員を活用することにより、研究開発を推進し、且つ、コストの流動化を実現する。

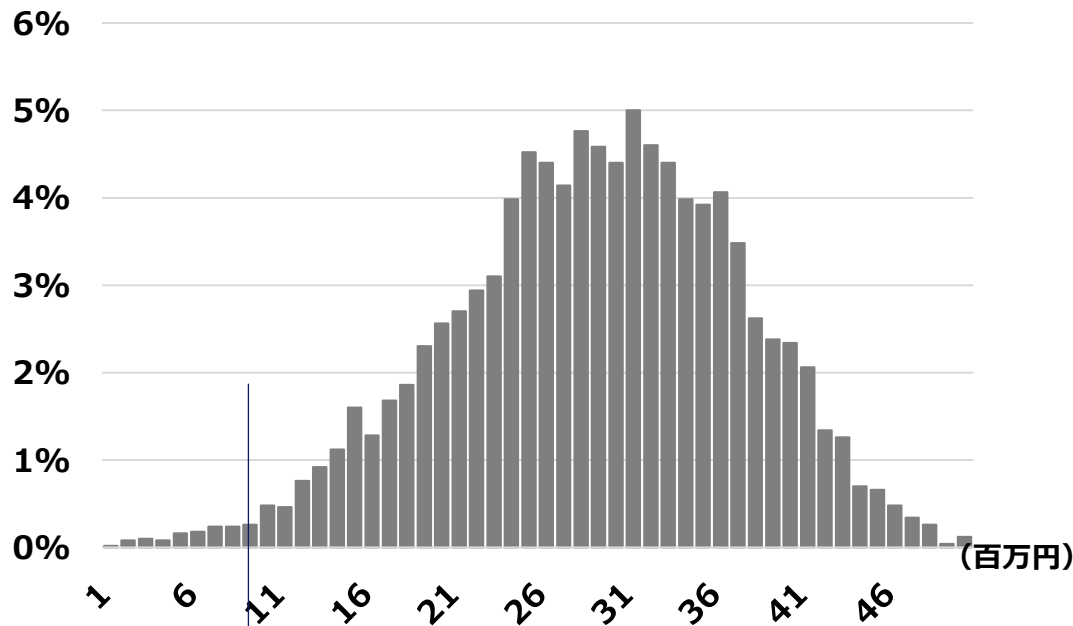
2026年3月期 最高収益を更新見込み



既存パイプラインの売上貢献イメージ

医薬品パイプラインを中心に、複数の導出契約獲得を目指す

モンテカルロシミュレーション*による
売り上げ予測の確率分布

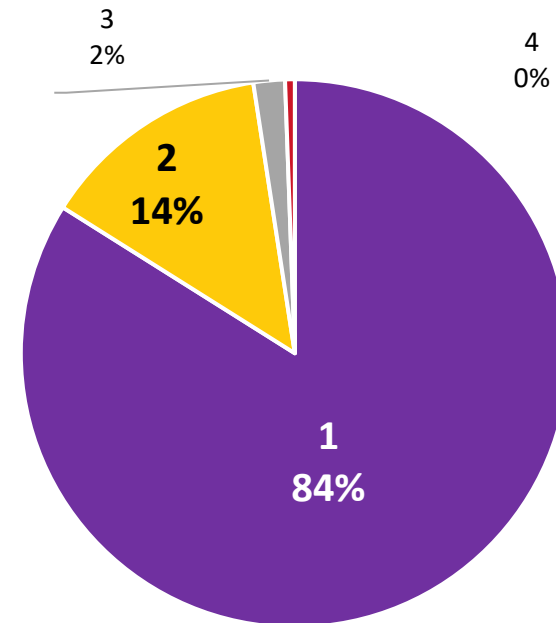


2026年3月期売上予想 1,400 百万円

95%信頼区間 1,568 – 2,383 百万円

既存パイプラインの導出交渉状況を踏まえて、契約条件（金額）と契約確率想定をもとに5,000回のシミュレーションを実行した

2026年3月期売上予想の内訳



「既存パイプラインの価値最大化」 潜在市場に向けた事業開発

- 各パイプラインをグローバルで事業開発
- 当該エリアで高い開発・販売能力を有するパートナーと契約

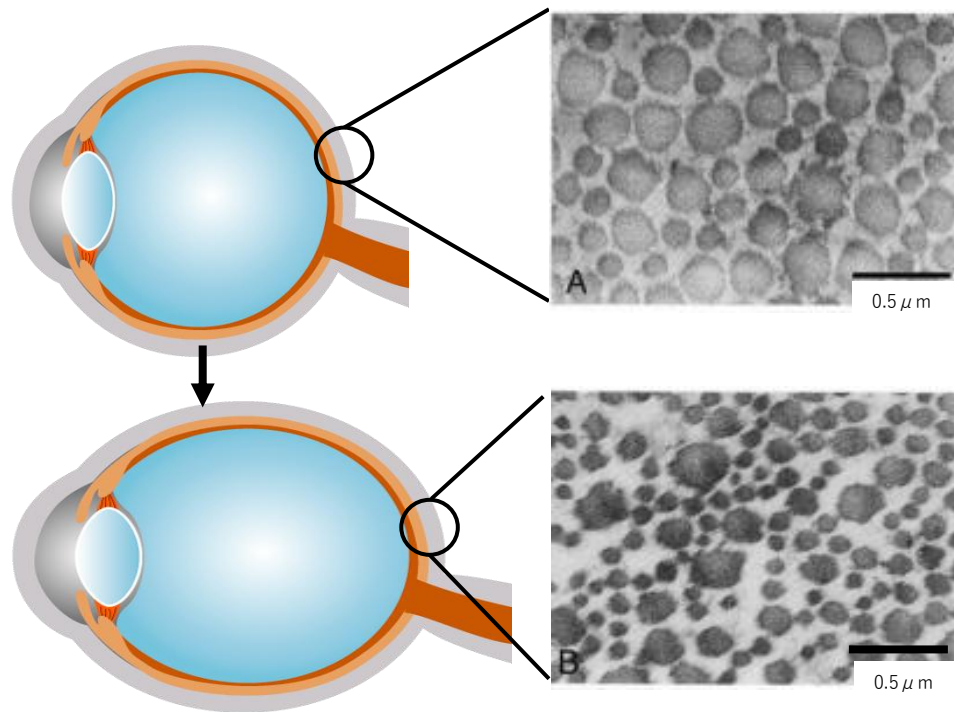
コード	想定適応症	日本	中国	アジア	欧州	米国
TLM-001	マイボーム腺機能不全					
TLM-003	近視進行抑制		非開示			
TLM-017	角結膜障害	○	○	○	○	○
TLM-018	未公開（点眼薬）		○	○	○	○
TLM-023	近視進行抑制	○	○	○	○	○
TLG-001	近視進行抑制		BYPT※1	○	○	○
TLG-003	円錐角膜進行抑制	○	○	○	○	○
TLG-005M	軽度認知障害			○	○	
TLG-005D	うつ病	○	○	○	○	○
TLG-005P	パーキンソン病	○	○	○	○	○

TLM-003（近視進行抑制 点眼薬）：国内 Phase 2 試験開始

日本 ロート製薬が Phase 2 試験開始（ROH-001）

欧州 Laboratoires Théa が臨床試験準備中

強膜の菲薄化を抑制することにより、強膜の伸展を抑え、近視となることを抑制



強膜は主にI型コラーゲン線維などの細胞外マトリックスから構成されており、近視では強膜組織のコラーゲン線維のリモデリングが観察され、眼軸長の伸長を抑制できない。

TLG-001（近視進行抑制 バイオレットライト照射デバイス）

日本 検証的臨床試験の患者組み入れ完了

～2023年

2024年

2025年

2026年

2027年

臨床試験（装着期間）

臨床試験（観察期間）

解析・報告

PMDA審査期間

2027年の
上市を見込む

被験者組み入れ完了
（2023年10月）

中国

Beijing Yijie Pharmaceutical
Technology Co., LTD.

アジア

欧州

➤ 新しいパートナー企業を開拓中

課題名	「近視を有する学童を対象に TLG-001」の有効性および安全性を評価する 多施設無作為化二重盲検シュードプラセボ対照並行群間比較検証的臨床試験」
機器（治験用機器名）	TLG-001J
機器装用期間	12 ヶ月（その後 12 ヶ月のフォローアップ期間）
施設数	11 施設
目標症例数	160 名（被験機器群 80 名、対照機器群 80 名）
対象集団	6～12 歳の日本人弱度近視の男女学童（-1.5D～-3.0D）
主要評価項目	有効性（調節麻痺下他覚的屈折値変化量）
副次評価項目	有効性（眼軸長変化量、脈絡膜厚変化量等）及び安全性

2025年は近視に注目！

□ アトロピン

- 参天製薬が近視の進行抑制を目的とした点眼剤リジュセア®「ミニ点眼液 0.025%」（有効成分：アトロピン硫酸塩水和物）を発売
- 中国ではXingqi社から上市済み
- 欧米ではPhase 3試験実施中

□ 近視パンデミック（日経新聞 2025年3月）

追真 HAKUSHIN

近視パンデミック 1

2024年12月に入学した井田一小学校（東京・大田区）の児童たちが国語の授業を受けていた。一人ひとりが机に置いたタブレット端末に向き合っていた。「登場人物の性格を想像してみよう」と考えた解答を、教室の前で置いた大型スクリーンに映し出す。担任の佐々木様（30）は「発言が苦手な子どもを促す利点を狙った」。

目から数センチ先の端末画面を見ながら、音がかりながら、視力の低下が「健康」な状態だ。授業の間に授業料を払った紙を掲げる。この学級では使用時間を授業1回あたり10分程度以下にとどめる。

近視は国内で大人の3人に1人が患う。進行しても眼鏡やコンタクトレンズで矯正できる。人数の多さもあり、従来は仕方がないと片付けられてきた。だが近年の科学

「30人学級なら25人」発症



タブレット端末を使って授業を受ける小学2年生の児童たち（東京都大田区）

研究で危険性が見えきらない病も多い。目の病変が広がる糖尿病の病気が増えれば、影を大人が生活にリスクが、軽度の近視で不便を抱える未来が待たれる。強度の近視は失明の原因にもなる。近視の増加は、世界的な健康課題の一つである。2024年には世界人口の34%が、50年には半数が近視になると。オーストラリアの眼科医が16年に公表した予測は、各国の中央公報（47）は打ち明けた。失った視力が戻らない。人口統計が

追真 HAKUSHIN

近視パンデミック 2

ジンスの特定臨床研究に参加している小学生（東京都千代田区）の廻町大通り眼科）



実際の視力の低い子どもは年々増えている。文部科学省の24年度の学校保健統計調査によると、研究に携わる廻町大通り眼科の院長、森紀和子（51）は「3歳児健診でもかなり近視が進んだ子が見つかった」と指摘する。

最近では華やかな色だけでなく、くすみがある色のような従来大人が好んだ商品も人気になり始めたという。

中寺は「子ども向け眼鏡もトレンドの変化が大人と同様に非常に速く、きちんと一人ひとりのニーズに合った商品を増やす」と話す。近視の低年齢化を促すとされるデジタル機器の使用が、皮膚にもおそれられない眼鏡への需要を高める。

（敬称略）

子どもメガネ「成熟」の皮肉

「学校ではスーパー眼鏡つて呼ばれている」。着用する眼鏡を指さし、照れ笑いを浮かべる。2024年12月上旬、東京都内の小学校に通う松本優那（11）は眼鏡チェーン大手のジンスの試作品を使った特定臨床研究のため、眼科医と面談した。かけている眼鏡は一見すると普通の眼鏡。ただ、よく見るとレンズの周りを囲む上枠に特殊な光を照射する小さな器具が付く。特殊なライトとはバイオレットライト。太陽光に含まれる波長が360〜400ナノメートル（10億分の1）の光を指す。近視の進行を抑えるという研究成果が発表されている。

ジンスは眼科医と組んで近視の進行を抑制する眼鏡開発を急ぐ。研究に携わる廻町大通り眼科の院長、森紀和子（51）は「3歳児健診でもかなり近視が進んだ子が見つかった」と指摘する。

「男の子用と女の子用のランニングを作ろう」。24年12月中旬、眼鏡チェーン店「Zoff」のメスディック本社。子ども向け眼鏡の商品企画・販売を担当する中寺理彩（38）が25年の春夏シーズンに発売する子ども向け眼鏡を店頭で訴求するか練っていた。

ゾフは25年春夏の子ども用眼鏡を100種類発売する。近視の低年齢化もあり前年から約30種類増える。

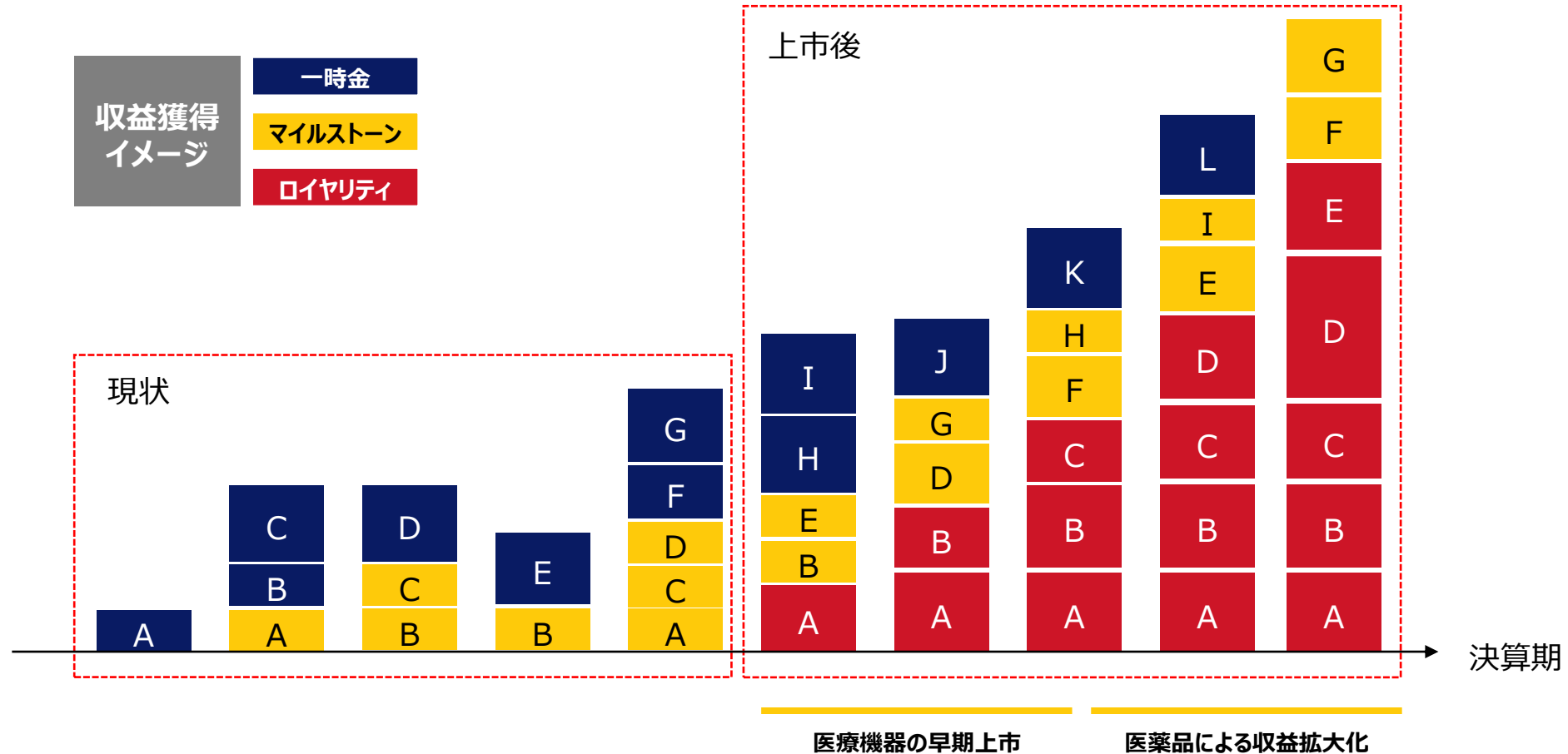
子ども向けの眼鏡に約5年携わってきた中寺が感じるのは、女子で人気の商品の変化だ。インスタグラムといった動画・画像共有サイトを通じて憧れのアイドルが掛ける眼鏡の情報を子どもでも集められるようになった。

3

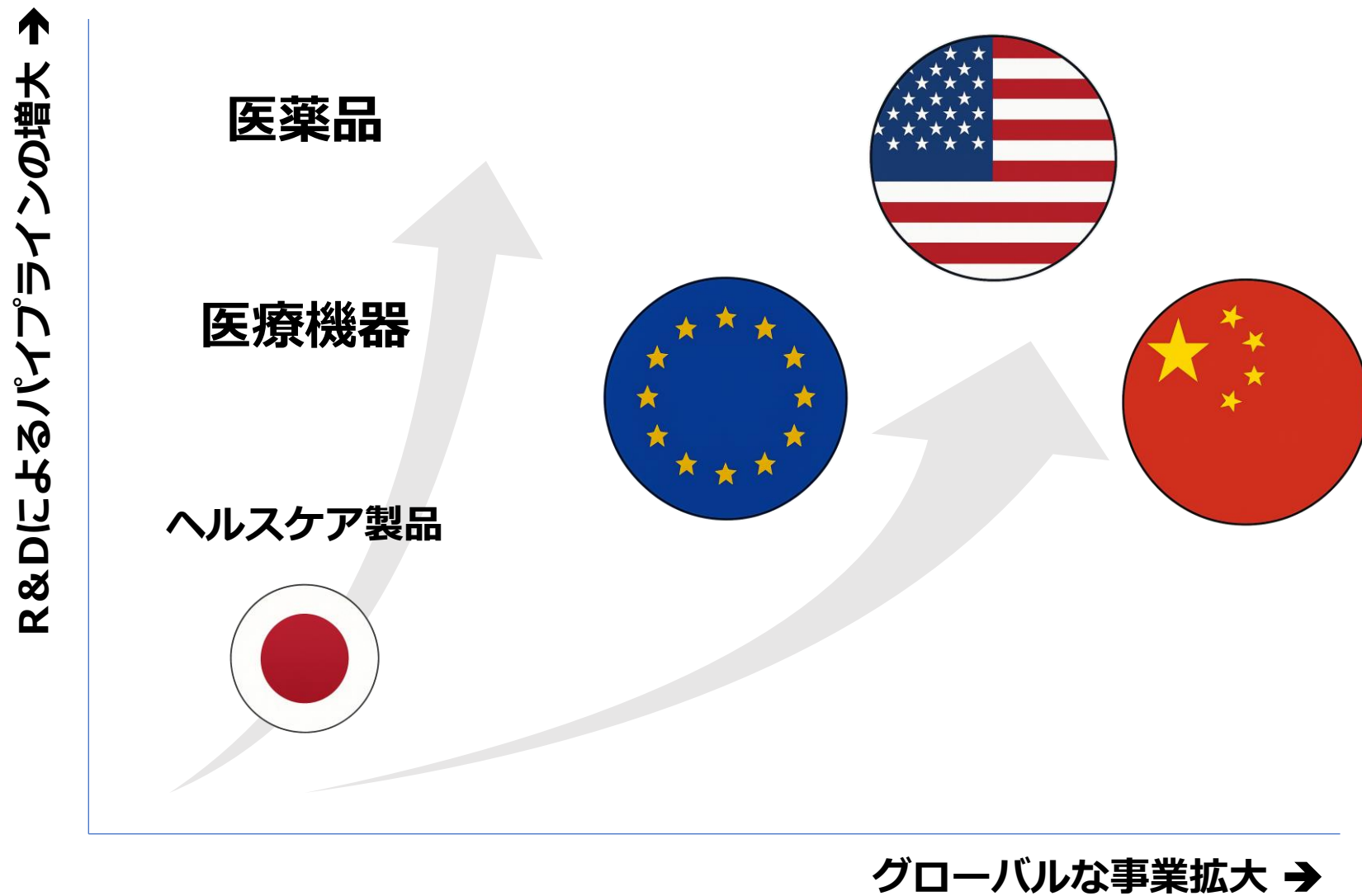
成長戦略

医療機器、ヘルスケア製品の早期上市と、医薬品による収益拡大化

研究成果を応用し、収益機会の多層化と社会的インパクトの最大化を両立



成長戦略：クロスドメインR&D（医薬品・医療機器） X グローバル事業展開





VISIONary INNOVATIONで
未来をごきげんにする



Tsubo Lab

免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来予想に関する記述には様々なリスクや不確実性が含まれており、その結果、実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。

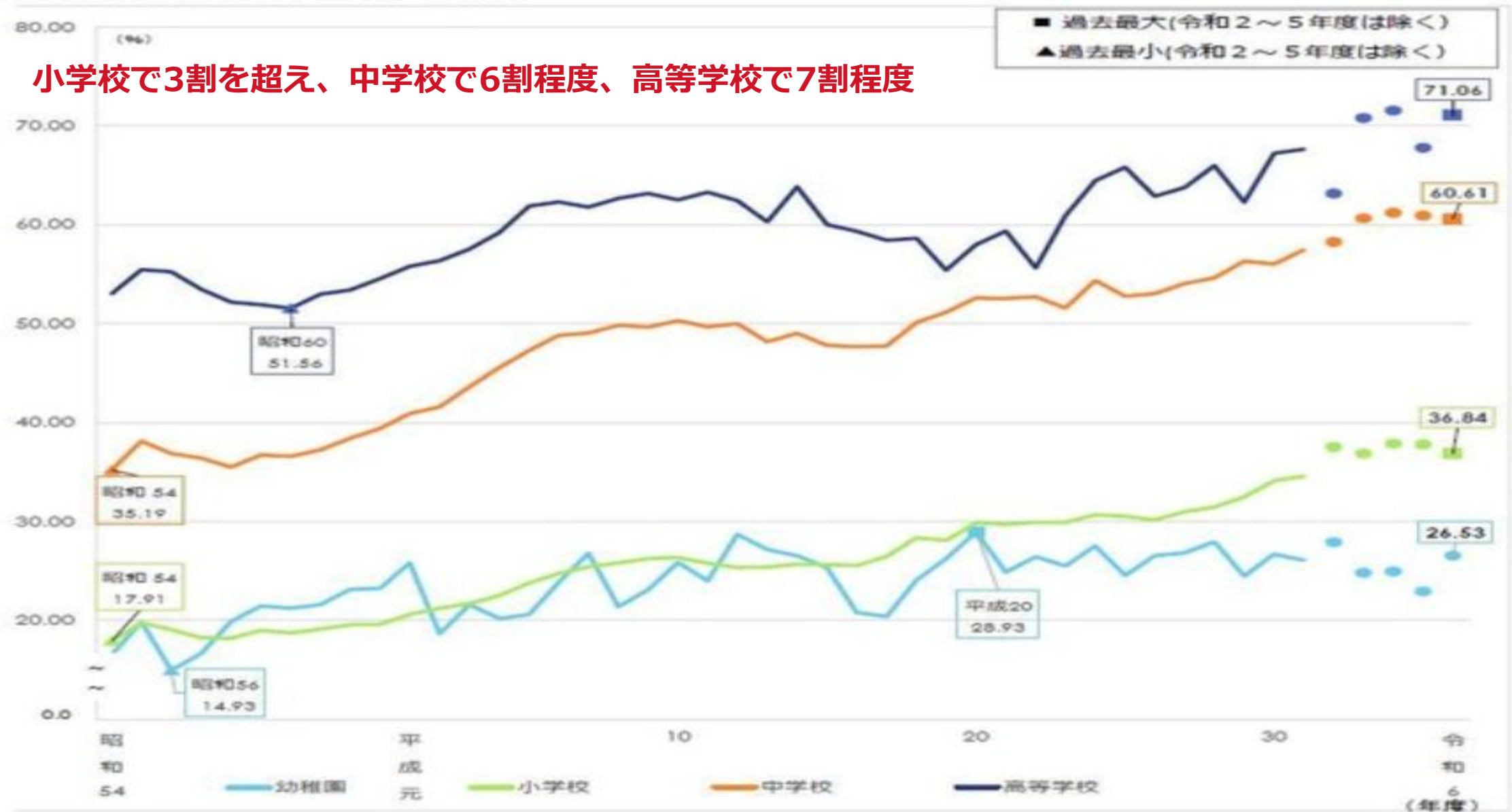
この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

4

Appendix

裸眼視力1.0未満の割合増加 文科省2024年度調査

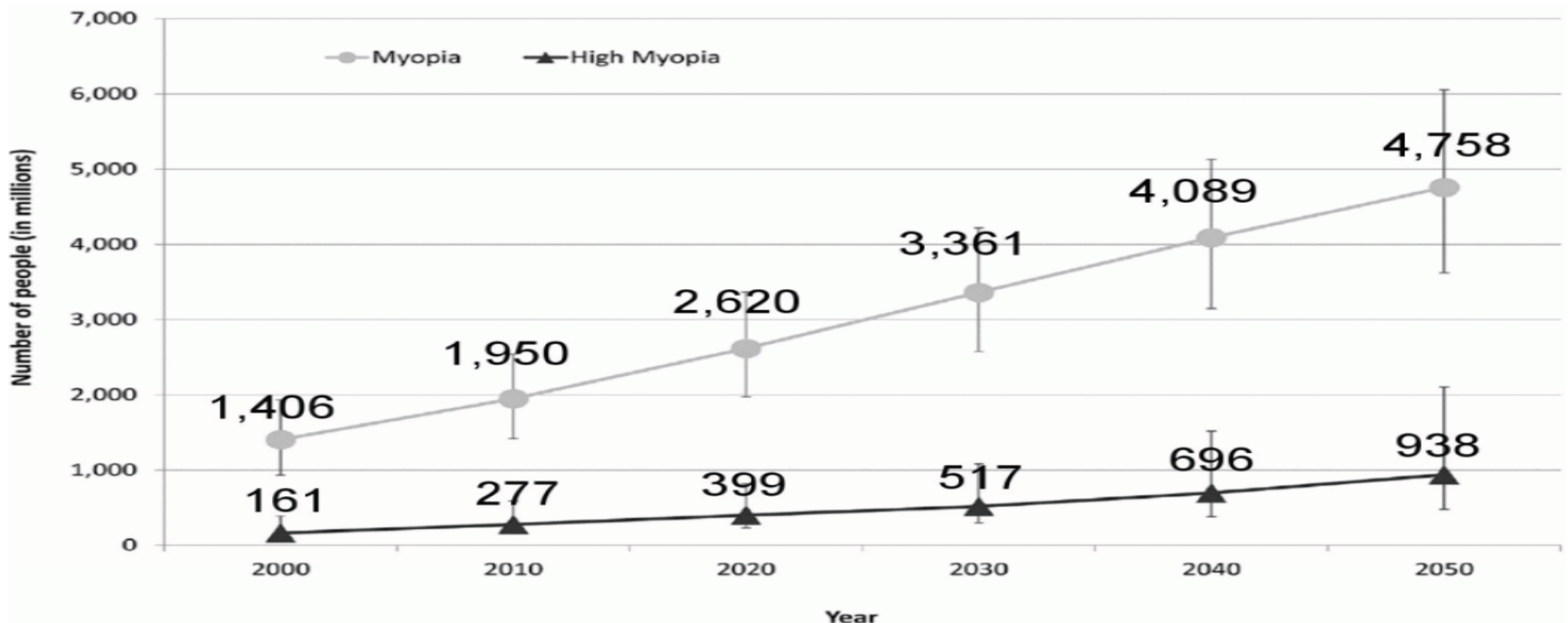
小学校で3割を超え、中学校で6割程度、高等学校で7割程度



世界的な近視人口の急激な増加

□ 2000年の世界の近視人口は14億600万人、強度近視人口は1億6,300万人

□ 2050年までに近視人口は47億5,800万人、強度近視人口は9億3,800万人にまで増加すると予測されている。



Brien Holden Vision InstituteおよびUniversity of New South Walesでの研究の調査結果 2016年5月